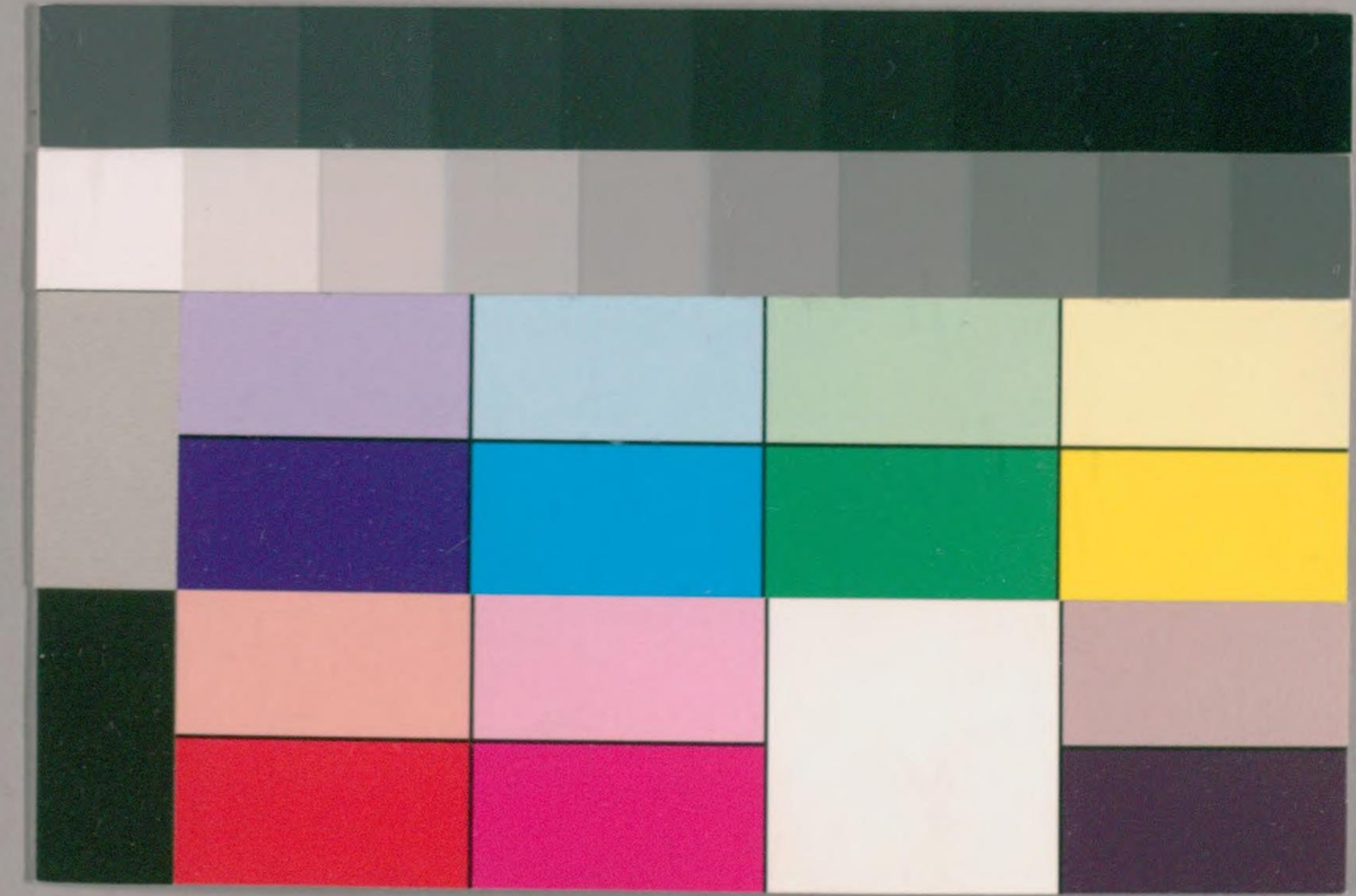


027.7

0441g



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

027.70 441g

叙

茲に東都の書林二世を

文溪堂主人の諸の書籍を

周刻を製本を其の

十の事其の味を獨り

稀なる奇き珍書を採り人

亦三益あるもの必ぶ書に

或は持ふよしと是を以て

出傳神史物の中致遠くに

出情を是は所藏の取れ

たむと三都の新著も漏れ



鑑

題

外

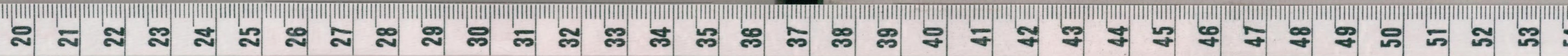
文溪堂藏

323388



一般資料課

外題鑑 一



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

事<sup>こと</sup>が<sup>ごと</sup>く<sup>ごと</sup>揚<sup>あ</sup>げ<sup>あ</sup>る<sup>あ</sup>多<sup>た</sup>数<sup>すう</sup>を<sup>を</sup>積<sup>つ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>  
依<sup>よ</sup>る<sup>る</sup>諸<sup>しよ</sup>國<sup>こく</sup>の<sup>の</sup>旨<sup>しよ</sup>意<sup>い</sup>月<sup>げつ</sup>に<sup>に</sup>信<sup>しん</sup>を<sup>を</sup>  
書<sup>しよ</sup>は<sup>は</sup>ん<sup>ん</sup>て<sup>て</sup>紙<sup>し</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>先<sup>せん</sup>代<sup>だい</sup>  
の<sup>の</sup>志<sup>し</sup>を<sup>を</sup>継<sup>つ</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>物<sup>もの</sup>の<sup>の</sup>本<sup>ほん</sup>筋<sup>しん</sup>の<sup>の</sup>題<sup>だい</sup>鑑<sup>かん</sup>  
を<sup>を</sup>増<sup>ぞう</sup>益<sup>えき</sup>し<sup>し</sup>最<sup>さい</sup>細<sup>じゆ</sup>に<sup>に</sup>再<sup>さい</sup>販<sup>はん</sup>す<sup>す</sup>  
且<sup>かつ</sup>ち<sup>ち</sup>も<sup>も</sup>く<sup>く</sup>其<sup>その</sup>表<sup>ひょう</sup>每<sup>まい</sup>の<sup>の</sup>文<sup>ぶん</sup>味<sup>み</sup>  
を<sup>を</sup>墨<sup>すみ</sup>に<sup>に</sup>記<sup>き</sup>す<sup>す</sup>稗<sup>ひ</sup>史<sup>し</sup>好<sup>こう</sup>の<sup>の</sup>記<sup>き</sup>憶<sup>いよく</sup>を<sup>を</sup>  
脚<sup>きゃく</sup>此<sup>こ</sup>故<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>長<sup>ちやう</sup>編<sup>へん</sup>に<sup>に</sup>部<sup>ぶ</sup>の<sup>の</sup>物<sup>もの</sup>  
の<sup>の</sup>本<sup>ほん</sup>に<sup>に</sup>十<sup>じゆ</sup>里<sup>り</sup>に<sup>に</sup>懐<sup>くわい</sup>中<sup>ちゆう</sup>に<sup>に</sup>せ<sup>せ</sup>せ<sup>せ</sup>く

衆<sup>しゆ</sup>人<sup>じん</sup>成<sup>じやう</sup>樂<sup>らく</sup>す<sup>す</sup>む<sup>む</sup>凡<sup>ぼん</sup>此<sup>こ</sup>小<sup>せう</sup>冊<sup>さく</sup>  
を<sup>を</sup>貯<sup>たくわ</sup>へ<sup>へ</sup>独<sup>どく</sup>に<sup>に</sup>和<sup>わ</sup>漢<sup>かん</sup>の<sup>の</sup>軍<sup>ぐん</sup>記<sup>き</sup>  
萬<sup>まん</sup>卷<sup>けん</sup>の<sup>の</sup>雜<sup>ざ</sup>書<sup>しよ</sup>稗<sup>ひ</sup>史<sup>し</sup>常<sup>じやう</sup>に<sup>に</sup>在<sup>ざい</sup>  
有<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>有<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>如<sup>ごと</sup>く<sup>く</sup>僕<sup>ぼく</sup>文<sup>ぶん</sup>漢<sup>かん</sup>を<sup>を</sup>意<sup>い</sup>図<sup>ず</sup>  
氏<sup>し</sup>の<sup>の</sup>丹<sup>たん</sup>心<sup>しん</sup>を<sup>を</sup>喜<sup>き</sup>悦<sup>えつ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>じ<sup>じ</sup>独<sup>どく</sup>  
筆<sup>ひつ</sup>に<sup>に</sup>補<sup>ほ</sup>助<sup>すけ</sup>が<sup>が</sup>え<sup>え</sup>校<sup>けう</sup>訂<sup>てい</sup>の<sup>の</sup>  
全<sup>ぜん</sup>本<sup>ぽん</sup>と<sup>と</sup>せ<sup>せ</sup>り<sup>り</sup>十<sup>じゆ</sup>方<sup>ぽう</sup>讀<sup>どく</sup>書<sup>しよ</sup>の<sup>の</sup>端<sup>たん</sup>  
天<sup>てん</sup>遠<sup>えん</sup>書<sup>しよ</sup>買<sup>かい</sup>文<sup>ぶん</sup>漢<sup>かん</sup>中<sup>ちゆう</sup>に<sup>に</sup>遠<sup>えん</sup>  
書<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>撰<sup>せん</sup>集<sup>しゆ</sup>する<sup>る</sup>昔<sup>こ</sup>々<sup>くわ</sup>昔<sup>こ</sup>々<sup>くわ</sup>  
の<sup>の</sup>為<sup>ため</sup>に<sup>に</sup>忠<sup>ちゆう</sup>信<sup>しん</sup>を<sup>を</sup>こ<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>推<sup>お</sup>し<sup>し</sup>り<sup>り</sup>  
永<sup>えい</sup>久<sup>きう</sup>貴<sup>き</sup>貴<sup>き</sup>の<sup>の</sup>愛<sup>あい</sup>願<sup>げん</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>

外題鑑 二



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用



二條院應保年中より安徳帝の  
壽永の頃まで凡そ二十余年  
の間の支なを記す

義経勲功圖會 前五冊  
後五冊

牛若丸とかせし時よりとあ  
志てく山不登り剣術とま  
あむ後に鬼一法眼の軍法  
うけて一代の功名かまき  
まらぬらうく画解とあ  
えそのなり

義仲勲功圖會 前十冊  
後十冊

木曾義仲ハ平家と討く源  
家の愁眉とむらく大功実ハ  
頼朝義経の功みまされり  
いふ頼朝の奸心不しつて其  
盛短く旭將軍の  
威名高き一代の功とあ

鎌倉太平記 前十二卷  
後十二卷

北条家執権職九代の間  
の治乱貞盛の恭時の仁政高時  
の暴悪とあ記す

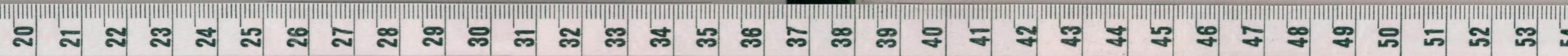
星月夜頭晦録 當時焼板

頼朝公三代の間の君臣の得失  
かゆらの事跡とあ

繪本和田軍記 前十二冊  
後十二冊

和田の義盛ハ鎌倉貞三の臣  
その一族九十三騎忠烈なる人  
あが口惜る北條の悪とあ  
英名とあはれは武勇のあ  
あまらうく画解とあ

繪本曾我物語 全十冊  
祐成時宗が敵討とあ



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

鎌倉新語

五初編

星月夜と同トのむらり

繪本平泉實記

十二後

頼朝奥州征伐の事と云々

太平記圖會

初編八卷

人皇九十五代後醍醐天皇乃  
即位より九十九代後光嚴院の  
治世まで凡四十余年の自忠臣  
孝子の傳はも加えらるる  
軍記ありて本朝無双の名記  
あり

繪本楠公記

三編楠  
三十卷

日本武略の第一智仁勇の名  
將楠正成の忠烈奇軍太平

記のりまるともくじと云々記  
しといとれまらる

楠正行戦功圖會

前一冊

正成の男正行父の遺訓を守り  
て南朝に忠を盡し軍器奇  
兵を以て足利勢とやうに戦  
功美談いと多き故にあつて  
集録して圖繪を加えり

楠二代軍物語

全五冊

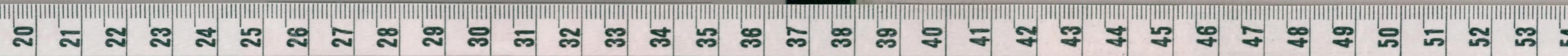
あまのむらさき繪解ありて袋  
價も下直るまは進物なりと  
いふ

繪本應仁記

初二三まで  
十五冊出来

足利將軍義政公政事のおと  
ろへしより應仁の大乱義昭の  
軍信長小天下と奪はるる

外題鑑



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

まで百余年の争戦とある

江戸 高井蘭山輯 漢齋英泉圖

妙見 清正真傳記 全六冊  
名所 清正公の幼立より一代の  
武功と圖繪とを

繪本甲越軍記 三編 前  
三十六卷  
甲越兩國の智勇と競ふ古  
今無双の軍書あり

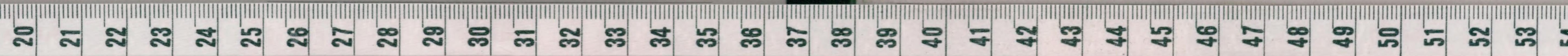
繪本菊地軍記 十冊 前後  
九州の名家菊地家の武功  
をとりとくわらふ

大 多羅羅軍記 全六冊  
内 周防山口の大内家の軍記あり  
但し作里物語あり

太田道灌雄飛録 全六冊  
一代の武功がある一繪入  
物たりとい

繪本 里見軍記 全十卷  
南総

この書ハ里見氏の起原上野の  
國との里見村の由来よりその  
歴代々の武功安房上総下総の  
三國小猛勇の旗下とある五  
十餘箇城の大守と仰がれ関東  
小美名高くと仁と施し義とび  
すし忠臣孝子と招くの美談  
凡八州の名所古跡里見家にゆ  
かすものありては  
中興の元祖義實の徳行の  
さるる後年鴻の臺の城の合戦  
が氏と争ひて 虚実且小田原の



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

好小世に救らるる武藏の諸士と  
 わねに力をたせしむる義戦と太田  
 道灌の子孫太田源吾同源六の  
 勇力里見氏と合体して小田原  
 勢と打破るの功戦数代連綿とつ  
 たる事實を語り記すの多し  
 東陽齋主人輯録

復仇 忠誠實録の部

繪本忠臣蔵 前後 二十冊

四十七人の義士の傳と諸書より  
 多しとて語りくふせし物語あり

繪本雪鏡譚 全十二卷

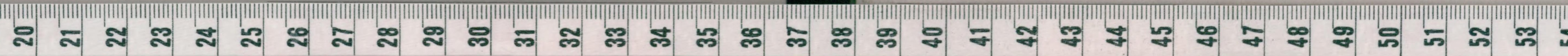
加賀具山の実録北國諸士の  
 美悪とよきやくし記せ

繪本金花譚 全十二冊

頼兼ね一廓通ひ文治高尾のつ  
 をらめと政岡の忠義又の悪人  
 仁木彈正の奸智ホとてあつて  
 て武門の用心とあるべきあり

繪本 靈驗記 全十冊

毛谷村六助仇討のめがけり



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
 タイトル『外題鑑』

ガラス使用



繪本伊賀越 全七冊

渡邊教馬唐木政重門の助木刀  
あて沢井又五郎ととらめ大勢の  
仇討めあがり

忠孝美善録 十前後冊

伊賀越の後日ともいふ仇討

繪本英雄記 全十冊

繪本荒川仁勇傳 全十冊

同復仇孝勇譚 全八冊

同誠忠傳 全十冊

同則定仁勇傳 全八冊

同白石新 全六冊

繪本神靈記 全十冊

田宮坊太郎が金比羅のヨ火験ふ  
く大敵と討つるめあがり

繪本靈驗記 全十冊

世にいひはるる乙川の血なま  
めあがり

繪本靈驗記 全六冊

世俗いざりの仇討といひはる

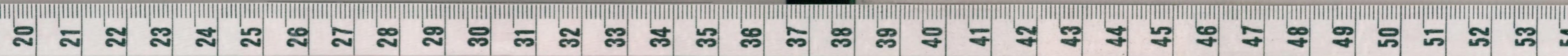
繪本龜山話 全十冊

繪本合邦辻 全十冊

加州高橋氏の復仇美談あり

茶店墨江草紙 全九冊

殿下茶屋の繪本あり



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用



人情とくおはるる古風を人  
情とくおはるる古風を人

双蝶々白糸草紙 全五冊  
菊薬亭作

敵討松山話 全六冊  
立川馬馬作

近江縣物語 全六冊  
六樹園著

繪本妹背山 全六冊  
振鷺亭作

田村物語 全六冊  
川上老人作

千代能物かごま 全五冊  
振鷺亭作

俊徳丸 全五冊  
同作

月宵鄙物語 前後十冊  
真顔大人作

梳久松山物語 全五冊  
馬琴作

勢田橋龍女本地 全三冊  
種彦作

忠孝連理片袖 全五冊  
一九作

長柄長者鶯塚 全六冊  
鬼卯作

松王物語 全六冊  
小枝繁作

佳馬樂奇談 全六冊  
同作

天橋立 全五冊  
一九作

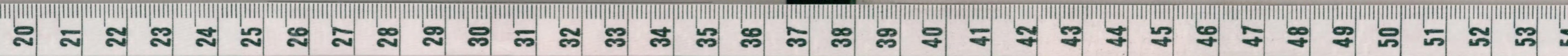
金花夕映 全五冊  
谷我作

自来也物語 前後十一卷  
鬼武作

漂注との雪 全五冊  
馬琴作

外題鑑

。十



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

石言遺郷 曲亭主人作 全六冊

遠江の國佐夜の中山みわりの  
りふる夜泣石のこと我種と  
して菊川の里の奇談あんど  
哀ふあひるき物ぐらうり

柳の糸 全五冊  
小枝繁作

新累解脱物語 全五冊  
馬琴作

斯波七長臣 全六冊  
谷我作

窓螢餘談 全六冊  
琴魚作

小櫻姫 前編五卷  
京傳作

小櫻姫 後編五卷  
琴魚作

前後ともう揃ふてれりろー

國字鶴物語 全五卷

首樂亭長根作  
葛飾北齋画

頼政鶴と退治しとら前めまれ  
高くあそを鶴によつて種々の奇  
談を新に説まて了因果物ぐら  
さすぐふ狂歌の大いそ戯作者の  
あふぬ文章一家の推風あつら  
小視ゆる草紙あり惜いなる取木  
焼失の後摺巻と着とまれり

苜蒲草檐五月雨 全三冊

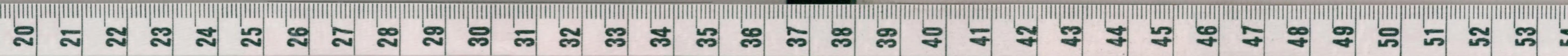
六波羅落と發端として作物  
ぐら此取木の今ハあー

千代物語 前 後 十冊

百合苦楚居鷹鳥 全五冊  
萬亭作

世小謔百合若十日眠の物ぐら

外題鑑



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

松風村雨物語

前後十卷

文東陳人作  
歌川國直画  
溪齋英泉画

浦ふいり多ふの事跡古今にわも  
多ふき奇談あり

嫩髻蛇物語

全五冊

全亭主人作  
漢齋英泉画

金鈴橘草紙

全五冊

同作同画

風狸傳

全五冊

柳亭種彦校

忠孝顯名録

全六冊

放下僧物語

全四冊

車僧物語

全五冊

雙名傳

全五冊

花若丸一代記

全四冊

泉近衛物語

全五卷

福地鬼外著

一名小大嶋軍記ともいふその  
趣向一際別みたり

繪本沈香亭

全十卷

新田義助沈香亭に在る奇談  
巻の首に奇術をたぐるもの異  
説後より南朝合戦のなむ死  
と記して常のよき本とかりて  
樂む

忠孝比玉傳

全六卷

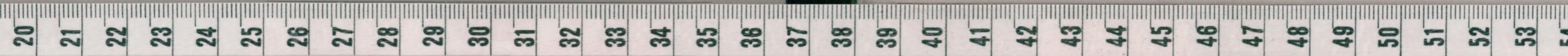
古實今物語

全五冊

坂東忠義傳

全九冊

下題鑑



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

浮牡丹全傳

全四卷

山東京傳著  
歌川豊國画

浮牡丹香爐の由来山路鏡渡の

危談名匠の京傳先生妙作画

もま元祖豊國の筆小てよき本

流行をよめの製本を頃評判の

草紙よりか板木焼朱に今ハ

絶り

巫山夢

全五冊

十返舎一九作

八文字屋風のまのなをて一流

の口調を本まらう例の滑稽を

兼たり

初夢富士見曾我

全三冊

元祖馬馬作

歌舞伎年代記

全

元祖馬馬撰集

松井物語

全三冊

赤城山人作

日本水滸傳

全五卷

綾足大人著

八百屋胡蝶夢

全五卷

明月清談

全五卷

復讐故郷錦

全五卷

鉢被姫物語

全五卷

出雲物語

全五卷

東雄操物語

全五卷

東雄過糸筋

全五卷

三嶋麓の花  
小女郎

全五卷

復仇武藏鑑

全五卷

外題鑑

十三



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

五人振袖

全六卷

白鳥奇縁

全六卷

河内木綿 團七嶋

全五卷

薄雲奇譚

全五卷

幸物語

全六卷

白玉草紙

全六卷

新編熊坂物語

全五卷

謡曲春栄物語

全五卷

蟹猿奇談

全五卷

筒井清水

全六卷

在原草紙

全五卷

櫻木草紙

全五卷

鳥嬢傳

全五卷

千貫樋

全六冊

小説江登紫

同

金鱗化粧櫻

同

虫狩宇治紀聞

同

繪本美鳥林

同

會誓三浦譽

同

寄木草紙

十前後卷

外題鑑

十



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

響通箭

全七冊

幸助 陸夢の浮橋

八前  
冊後

平井 妹背語

全五卷

繪本打出濱

同

繪本綴の錦

同

解若 逆櫓松

全六冊

霧 書替文章

全五冊

那智の白糸

同

奇談青葉笛

全六冊

繪本伊吹物語

全五冊

繪本遠山日記

同

雲井物語

全五卷

手引の糸

全六卷

弥生櫻

同

雙三味線

全五冊

繪本檀二葉

ノ六冊

全傳 駿河舞

同

繪本實草紙

同

金谷金五郎

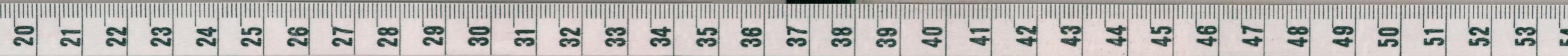
全五冊

玉廼搓櫛

同

外題鑑

〇十五



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用



蝶の夢花之曙 全六冊

朝顔日記 前五冊 後五冊

駒沢治郎左門の傳（伝）と志（志）へ  
異朝の小説 翻案 絵入（絵入）と本中  
の尋（尋）とす（す）き（き）の（の）り（り）て（て）芝屋  
司（司）の遺稿と浪花の作者（作者）の  
柳浪大人の補綴（補綴）と一評（一評）判（判）  
とを絵本（絵本）なり

室の八嶋 全八巻

怪猫の美人と化け物語（化け物語）にて  
東の作者の及ぶる妙作なり

浪花侠夫傳 全六冊

男伊達のおとせ（おとせ）り（り）ろく（ろく）綴（綴）り  
ある新奇珍説（新奇珍説）いと多（多）し

盆石皿山の記 全五巻

紅四ヶ皿のことば（ことば）あり（あり）且（且）ふ（ふ）あり（あり）  
あるく作ら（作ら）ま（ま）り（り） 曲亭主人作

越路章 十前二巻 後

嵐山花月奇談 十前 後

復讐言安達原 全六冊

峯乃あがき 全六巻

北野の二葉梅 全六冊

孝子嫩物語 全五巻

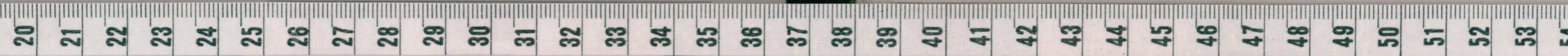
石堂九川萱物語 全五冊

蜻蛉の巻 全六巻

若葉榮 全六冊

外題鑑

六〇六



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

愛護の若 あごご 全五卷

鳴川 犬神物語 なるがわいぬがみ 同

繪本口之碑 えほんくちのいし 全四卷

我儘草紙 わがままくさし 全五冊

玉照物語 たまてあつ物語 同

塔談堤の菴 とうだんづつみのいん 同

阿波の鳴戸 あわのなると 同

和漢の染分 わかんぞめ 同

繪本浪上化男 えほんなみのうへ 同

繪本根笹雪 えほんねざしのゆき 全六冊

檀風物語 だんぷうものがたり 全五卷

復仇尼城錦 ふくちゅうにじょうにしき 同

西海浪間月 さいかいなみまづ 同

鳥邊山老の糸 とりべやまのいと 同

竹乃伏見 たけのふし 全六冊

三山草紙 さんざんくさし 全五卷

復讐千丈松 ふくちゅうせんぢょうまつ 同

大和物語 やまとものがたり 同

忠臣山賤傳 ちゆうしんさんせんでん 全六冊

琴松譚 きんまつだん 同

外題鑑

〇七



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

文化宗像曆 全七冊

浄瑠璃姫物語 同六冊

芦茅草紙 全八冊

庚申談 全五冊

観音守護室劔 同五冊

鏡山烈女功 同六冊

旭立帯 同

復讐親子塚 全六冊

松蔭草紙 全五卷

以呂波草紙 同五冊

繪本松栄花 全六卷

同夜船譚 同

同茨の露 同六冊

再開高臺梅 同十冊

二枚繪草紙 同六冊

淀屋形金鶏新話 前十卷後

女熊腹枝草紙 全五冊

雨夜傘 全十卷

都鄙物語 全五冊

繪本賢女鑑 同六冊

外題鑑 十八



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

外題鑑

發功譚 全六冊

名川夜話 同

春夏秋冬四季物語 十前冊後

竹籠猫奇談 全五卷

復元見浦 全十冊

同女傳 全十卷

本朝惡狐傳 全十冊

梅川赤繩奇縁 全六冊

女水滸傳 同

二個折言竹曲摺 全五冊

小野八十島蔭 全十冊

繪本物草太郎 同

同奇縁傳 同

同石金譚 同

全傳龍月草 全六卷

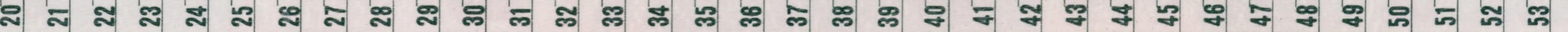
道成寺鐘記 同

長門月桂新話 十前冊後

世継草紙 十前卷後

四谷怪談 全五冊

梅菊新話 全六冊



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

野路の玉川

全九冊

名酒乃から深

全五冊

双蝶記

全十卷

その草紙の山東公卿の本の作  
かきあて古今天類の妙意ゆり  
画も元祖豊國の筆にて彫刻も  
るほやふ製本あふみのほし

白狐傳

全十冊

一名あやう物語  
近頃身まゐる名画作を東  
あひらねるあやう草紙あり

山折大夫

全五卷

後今調録

全六卷

月氷奇録

全五冊

三七南柯夢

全六卷

筒井順照楠と切と下めて  
木精の怪あり半七三勝の奇縁と  
説古今人情の意を流く一哀  
まおわりろき物語なり

南柯後記

全八卷

南柯の夢の継作あり前編ふ  
よまふる奇談とりあべ

繪本野草紙

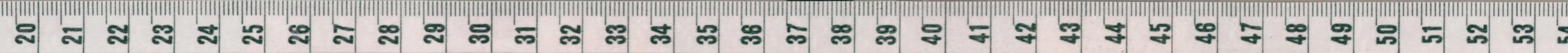
全五冊

李丁庵三馬著  
よま奇談とむめそのづらふおも  
あら

常夏草紙

全六冊

あ夏清十郎のめがら  
文学上人 橋供養 全五冊  
行狀記 小枝繁作  
あまの盛遠々發心の記あり



松濤 秋七種 全六冊  
馬琴作  
情史 秋七種 馬琴作  
か深久松の物がたり

刀筆青砥石文 全八冊  
馬琴作  
模倣案のおひきまゑ亦一種  
の奇談あり

浅間嶽面影草紙 全三冊  
柳亭種彦作  
後編 執着譚 全五冊

種彦先生の新案音代あり

阿古義物語 全五卷  
三馬著

同 後編 全六卷  
春水著

弁慶異傳 全五卷  
英泉画

為永春水門人 柳魚作

梅花水烈 全四冊  
山東京傳作  
後編 梅花春水 為永春水作 全四冊

前編 發市の後 数十年後編と  
て全傳とあり 実小水烈春水の如く  
鮮和げうり小梅が愁の眉と閑さ  
省官とむ老由兵衛の物語とあり

隅田川梅柳新書 全六冊  
曲亭馬琴作

梅若松若の事跡と種とふれども  
名にふ作者の新書は岸の柳小  
梅が香とてなる筆の綾錦文章  
清き隅田川の景色もえゆる物語

歌討裏見葛葉 全五冊  
曲亭主人作

三國一夜物語 全五冊  
曲亭主人作

富士と浅間の煙のちやう一夜乃  
中た校木の焼失今ハ此販世に絶たり



近世 霜夜星 柳亭主人作 全五冊

怪談 世の人人の言傳ふ四谷怪談の繪  
入り芝居ふするも此本の著述  
ありぞおこじあり

勸善常世物語 全五冊 曲亭主人作

最明寺殿雪の段の音ろ流るゝ

安積沼 全五冊 山東京傳作

小幡小平次の怪談あり

雲絶間雨夜月 全六冊 曲亭馬琴作

鳴神法師の物語ありとも孝子の傳と加えてあり

安方 忠義傳 全六卷 山東京傳著

將門の貞女 津夜叉姫内芝仙の術 依て勇士と招き父のころぎと継ん

うざんげ物語 全六冊 山東京傳作

稚枝鳩 全五冊 曲亭馬琴作

右の老翁がうそす下両書よりふ  
相同トある事どもさへんが名人の  
作る事六がむむむささの撰具  
ありてあり

鷺之談 全五冊 山東京傳作

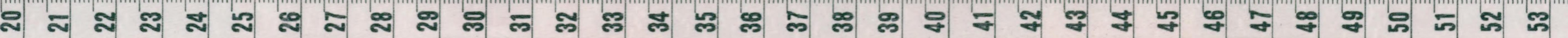
四天王 全十卷 曲亭主人作

系櫻春蝶奇縁 全八冊 馬琴作

旬殿實々記 全十卷 曲亭主人作

蟬丸 半月夜話 全十卷 白頭子柳魚作

大の草紙の作やあわやけれも  
前後相合して看に倦むる



松浦佐用姫石魂録 前後全十冊

曲亭主人作

瀬川采女才女於菊が傳 翻案

美濃八丈奇談 全七冊 馬琴作

古衣 三の傳とあまの古今無類の奇談あり

さくら姫 全五冊 山東京傳作

忠臣水滸傳 前巻 山東菴著

假名手本後目文章 全五巻 元祖 五川馬馬作 北斎老人再

忠孝潮來武志 右 全五冊 同 同 画 作

鉄手摺昔八偶 全五巻 柳亭種彦作 柳川重信画

外題鑑 三十三 珍書なり



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g タイトル『外題鑑』

ガラス使用



血四郷談 全六冊  
馬琴作

頼豪阿闍梨怪傳 前後  
著作堂馬琴作  
葛飾北齋翁画

三井寺の阿闍梨頼豪の氣とるし  
奇談より木曾義仲都登りの因縁  
清水の冠者義高鼠の術と行の  
奇談猫間新太郎の復讐の辛苦  
烈女唐糸の忠臣ふんど古今に秀  
一ののかりあり

夢想兵衛胡蝶物語 前後  
巻

夢の谷の作者の博識わさ  
小見せし昔の鳩の理屈に  
かゝるも腹をかかへて  
然とわらふそま多姓文百  
ふりかへてわらふもぬかりあり

曲亭主人作

青砥藤網摸凌案 五巻  
同 二編全五冊

青砥左門最明寺の眼代りて評  
定衆の二位とあり仁政と施  
心一明德慈善とすむ物語あり

稲妻表紙 全六巻  
山東京傳作

稲妻のほじまの足らふ不破の関その  
句とぞ思ひある不破と名古屋の  
物がら夫中新奇妙案の取合せ  
よき卦之向ふまの実にわかづまの  
きくくを死草紙にこそ

本朝粹菩提 前後  
十巻

この書の稲妻の後編中名古屋  
小山三の復讐に一休大禪師の傳奇  
杖の目へちをて天下老和尚の活法佛

下頁盤

三三



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

智力の道化諸書より撰りて  
ひのりみー 山東庵主人作

濡燕栖傘兩談 前後十卷

曲亭主人校合  
墨川亭雪庵作  
柳川重信画

傘に栖るうをうま濡燕といふ句に  
よりて外題さつげらまらありり  
彼京傳子の縮妻と云ふてんてんが  
女中衆の各古をいまのねと燕福  
ら由りてあぬこをすん此新板の愛  
致の山東の山より墨川の川の新ら  
るく洗濯せしとほるえん

曠精奇談 全五冊

坂東 濡衣草紙 全五冊  
奇聞 苜蓿亭著

此の珠きまの珍説るほがわのり  
焼失してすの巻世にまゐる

昔語質屋庫 曲亭馬琴作  
勝川春亭画 全本五卷

此繪入物語ハ例の戯作のたふわび  
事跡と吉野の皇居のたふ吉野の  
麓六田の里小室屋宝珠といふの在  
一由て後語とほ其家二集好古の  
癖あり好事のめを質ふりて金  
貨と法業とをり或夜まの主藏の中  
の物音をたつひていふく是とあ  
るまのいふのひ足して登りて本和  
ひのたの段階子さう彼彼三階の  
トと息もらして伺の者とい種  
の道具質の鬱たる精気わふ  
ま各の牙の上れとさがる其中  
めりて博學めたる先生ありこれ  
多ん延喜の羊号と考りて見臺  
の精魂ありとさ成判者ふあり  
らるるその夜まといのあくの牙  
のそをほと評注する役とては

国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

曲亭翁の滑稽書とて然るを以て其の  
まぶしのむくむくする異物を記其  
いと数々の品々を別々の古物三  
国と経めぐる果は那須楚に終り  
とつて玉藻前の狐の皮衣とて漢  
末の軍師と孔明の陣太鼓記の名  
虎の錦のふんが装束に前まゝ大  
磯の虎の法の品々源家の重宝支物  
丸石堂丸の野登の脚半を其  
各ふんが説き古今未発の道  
理とほく古書の未やまり俚俗  
のまじりて明らうとせしむる智  
うも一度の巻とせしむるの  
理によつて万古を發明するの教  
えをうらぐらうおを物の本と  
らるるよむとも用捨のころを  
みるるどおとく書と信じて  
よまぬゆゑのいふゆゑ此書を  
師とたのむるはるる文學の才子  
ともかへりとり

俊寛嶋物語

曲亭馬琴作  
歌川豊廣画  
前編 五冊  
後編 五冊

平家世とて二十一年皇統を  
茂ゆ下と苦も非道を行ふ  
多かりけり公家武家とのふ  
と憎まむと平旗のふふとわ  
れつと必ぬ者もあはれ新大  
納言成親々の思ひに組一平家  
と傾けんとて人々をさへり  
その大将の列ふは法勝寺の修  
行俊寛が度量武家の人あま  
さう如意が嶽の山中鹿が合の山莊  
ふ一味のさきかると合合さ此を死  
牛若丸平家の合合さうかふんと  
都ふ登り如意が嶽の山中にお  
折し平の清盛の如意山の滝を  
る人々を多々の同勢にけり御  
所車を押の折し牛若丸の  
上りこま見下しむる目覚し



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

平氏の行状を清盛入道の老のび歩  
行の院の御幸に終りし事ありといふ  
と發して居る所へ義朝の臣將門  
太郎正親といふの牛若の畧奪を  
めりて力と合し大磐石と山の上より  
投下して清盛の車ども潰れさせ  
まて清盛はその車にあらざりて  
必死と退き正親の打死しうも  
まじも牛若の大敵と切やぶり俊寛の  
下部が途中に下と置る長持の中  
へかまをたててとぞも鹿が谷の別荘  
へかまをたててとぞも鹿が谷の別荘  
奇談その文章のこまやうかたのち  
まこと古今の作者もまよふべし  
まじも牛若の牛若が時勢と論と俊寛  
といふの平家といふこととまよふべし  
といふの牛若の牛若の牛若の牛若の  
俊寛夫婦牛若の娘の智にまよふべし  
まよふべし人情のまよふべし  
かまをたててとぞも鹿が谷の別荘

人の者ありし事やぶれ竟る鬼  
東の嶋み流る其子ごの辛苦艱難  
壽星の孝心松の首の貞実まよふ俊寛の童  
るり安王有王まよふ義ありまよふ  
かまをたててとぞも鹿が谷の別荘  
俊寛が嶋の段の誠小奇代の趣向  
者官のまよふ曲亭公羽の機関と泰  
するまよふ後小牛若が再度の都  
のり白川の堪海と戦ひて鬼一法眼  
まよふまよふまよふまよふ  
書まよふ鬼一まよふ回答げまよふ源家  
の御曹子九郎義経ともいふまよふ  
明英智のその風情まよふ小作り物  
まよふまよふまよふまよふ  
の著る繪本にまよふまよふまよふ  
別てこれの嶋めまよふ以て美談  
まよふまよふまよふまよふ  
らまよふ八犬傳の長編をのいて  
まよふ俊寛鳴物語まよふ繪入まよふ  
最第一番の著編といふまよふ



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

壯蝶翁再遊外記 全五卷

曲亭馬琴大人作

此書へ前小流行は夢想兵衛胡蝶物語の続編として古今未幾の妙論奇説前板のありしは小まなれども百増倍を夢想兵衛の年功はりていふまゝ世に珍き新郷を著しきその風俗を教訓する博識弁明の普く世界の人情小通下和漢古今の学者といふものいふ説きる詮穿に滑稽笑談自然と俵り古事と正しく今様の洒落小まらる俊才文雅と小再びあふる狂歌翁の曲亭翁の年を後著者の精妙とて賞する競べのの皆あはくは小ちをとりしつる丹誠の作といふとも右の如くまこと小深理醒俗の一大奇書なるべし

功説 好文士傳 五冊

鳥永春水作 溪齋英泉画

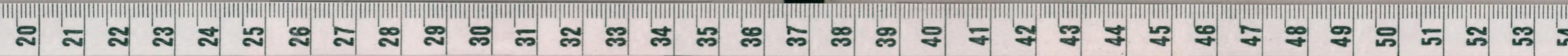
第二輯 全五卷

第三輯 全五卷

第四輯 全五卷

第五輯 全五卷

後花園帝の承亨の頃南朝の古重に起原梅堂の好文吉野殿の前後論梅山法師談国とめぐり梅姓の五賢勇士の奇功とあり後不道准吉とさしと招くめ河肥の城を集るの奇談関東の古跡を語りくさね又管神の灵地その神徳利益とあり多く古戰場の遺傳とありてあ持資君の文武の徳次天が下にかくるまゝた勇の古今美談とあり



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

中本 三卷

曲亭馬琴作

此書の原本と云はれし中形美  
麗のふ仕立一帙を三巻と  
画も当時の流儀をきくはら  
りさればとて近頃のものと  
俚俗の痴情をそのまじりて  
史のまじりて拙き草席の  
おもしろきも新しき流儀を  
その中形の終入るまじりて  
その看官へ大に推しよる文  
成自在の曲亭が書ける物作  
りよきものよきものよき  
まじりて中本にかまじりて  
わきまは唐土の小説をまじ  
人目よきやまじりて珍書を  
婦人の教をまじりて教向の  
びの文章をまじりて又まじ  
まじりてこれ前代後世の  
ね物作りの二冊の退くは

長編大巻之部

小栗外傳 三編揃 全十八巻  
小枝般系大人著  
首飾北齋画

説経祭文にまじりて呼ぶ小  
栗の判官照天の姫の故事は  
新に作てし物語なり

更科草紙 三編揃 全十五巻  
栗板亭鬼卯作

勇婦更科難のこころ山申變  
取の傳尼子家の典立十勇士の  
奇談とちのりくはる

景清外傳 三編揃 全十五冊

小枝繁作  
歌川國直画  
あらしがやまの事とて  
悪七兵衛が少平の事とて  
くはるてし奇談なり

朝夷巡嶋記 馬琴作 豊廣画

初編 五卷

二編 同

三編 同

四編 同

五編 同

六編 同

七編 込刻

木曾殿豊津の敗軍より巴御前の忠操  
貞烈の事ありしと思はる曲亭大の  
筆刀自在在留の義盛の館に巴が自  
害の事はさ実に義仲の胤と出ま  
ある婦人がそをありける人と  
自然にふる愁歎遺感さすま  
巴の足るんとせしゆ傳ふ人口ゆ  
ひて其意をんんんんんんんんんん  
の妙作と云ふ善く鳴呼るる  
必らばよませぬんん

鎮西八郎 弓張月 馬琴作 北齋画

前編 六卷

後編 同

續編 同

拾遺 同

残編 同

全本三十卷

六条判官為義の八男尉者為朝  
の堪えしと云はる九筋下り菊地原  
の令と威伏者鎮西八郎と稱する  
を道と云ふ保元の乱小都登  
新院の御味方にして軍畧を用  
らまは無念の敗軍に猶大敵と  
が後八丈鳥に日より琉球國へ  
海するの珍説すて故事と旧  
記より為朝一代の行状を以て  
のすするは亦その室を以て  
貞烈と云ふと云ふが美談多く  
凡そこの本の随一あり



六六 水滸太平記 岳亭作 英泉画

初編 五卷

二編 同

三編 同

太平記の中へ水滸傳すゐりてんをあざら

ふまきすぢと種たねとは三十六人の勇ゆう士しに  
まづ水滸傳すゐりてんのむき本ほん太平記に  
うはしり丹誠たんせいの作さくといふ

俊傑しゅんけつ神しん相さう水滸傳すゐりてん 十五冊出未

あまの盗賊たうぞくの名なをなぞ水滸傳すゐりてんの  
風かぜととししててるるありありきき作さくあり

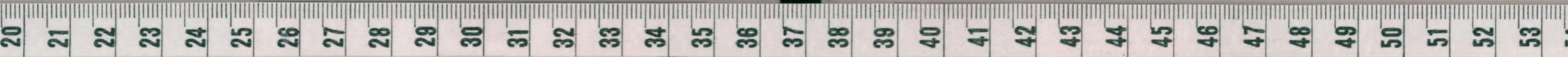
新田功臣録しんたんとくじんろく 前後 十卷

小枝繁老人作  
葛飾北齋画

新田功臣録拾遺 全五冊

小枝繁老人稿  
狂訓亭春水著

此書このよ新田義貞しんたんぎせい公こうの公達こうたつ徳壽とくじゆ丸まる  
の生なまままより南朝なんてうの天子てんしに忠義ちゆうぎの心こころ  
ふかく南帝なんてい一統いつてうの御ごににふふさんとさんひひをを  
に味方あじなをかかららの信義しんぎ亦またこれこれをを補おぎな  
佐さままのの功臣とくじんをを誠まこと心こころ或あるは貞女ていじよ  
節婦せつふの百切ひやくせつ千磨せんま軍師ぐんし契けい中ちゆうの才智さいち  
敵てきをを敗くすの詐しや且かつ左中將さちゆうしやう義貞ぎせい朝あそ  
臣しんの老臣らうしん篠塚しよづか伊賀いがの入道にゅうだう石原いしはらが  
再身さいしん強勇きやうゆうと頭かぶ義貞ぎせいと佐さの  
美談びだん万里ばんり小路せうじ勝房かたふらう朝臣あそしん隱遁いんとんの  
後のち神仙しんせんととるる紫むら化け真ま入いりととまままま  
のの神通しんてう義貞ぎせいのの火ひ難なん未ま然ぜん  
は察さつももひひててそのその一いつ黨たうとと一いつ仙境せんけい  
かかつつままをを再さい度た世せいににああららるる  
足利勢あしたしせいを切きるるむむじじけけ南帝なんていと快心かいしん  
ああららままつつの奇軍きぐん南朝なんてう追慕しゆぼ  
の物ものががああるるあり



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用



相馬 總猿潛語

英泉画

瀬川如阜作

初編五卷 二編五卷 三編五卷

初編より後ハ狂訓亭の門人  
あり駒久柳魚が継作あり  
將の幼年を患ひしより其母  
北に祈り命を捨て將門に世に  
出さんとす前操を其母とす  
勇士の傳すべく發端の赴向  
奇代たりの名也

木曾 鼎臣録

溪齋英泉画

義仲

頼川如阜著  
為永 松亭西校合

一條ありやむらひ祭の故事帯刀先  
生義賢大倉の最期悪源太義平  
の判若伯父上討の意味深長す

駒王丸の出生實盛むそのふこれと  
わが道なまるとの義心其後木曾  
の地に成長し今井樋口楯根井巴女  
とありゆ忠烈勇士の幼立伊勢桑宮  
の乙女に紛姿幼年より平家の動靜  
を伺ひ旅中の患苦次第に英勇豪  
傑とありめ竟に北國に旗を上げる身也  
後と謀りて小事と大謀とを人の  
奇談と多く爰にその大畧とも  
尽しが

初編 五卷

二編 同

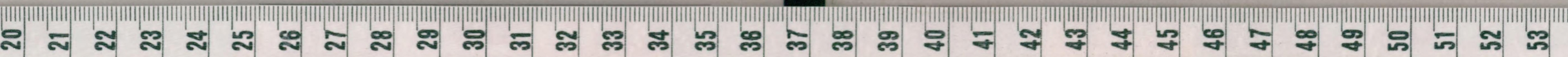
三編 同

四編 同

五編 近刻

伊勢新九郎大志傳 全十五冊 近刻

田原北条宗雲が京都を浪人して諸  
國武者修行の奇談あり 為永作



開卷 驚奇 俠客傳 馬琴作 英泉画

初集 五卷

二集 五卷

三集 五卷

四集 五卷

此書南朝の忠臣新田楠の一族が  
今迄の後裔志を以てて是利の  
非義を恨み南帝補佐のえかりごと  
かざし甚難辛苦するの物語を楠  
氏の二奇女姑摩姫幼羊に古今に  
たゆみ稀る才智勇烈男子はま  
河業九六姫の仙術する巻中奇談  
未だの新多むりて実に用巻  
て驚奇といふ外題ありて  
作者の自讃より少くびあふ  
古より史む人の遺憾とする  
南朝忠臣の外傳ありて快記  
傳記あり

近世説美少年録 馬琴編

初編 五冊

二編 同

三編 同

四編 同

此書周防の大内家聖地を焼亡に  
あつて發端して大江に成る馬琴  
信勇陶瀬十郎のお夏にまはりて  
其蛇念世に憑頭してわやれ少年を  
生するすて物語の風をかきそ八犬  
俠客のあひむきといふは異なる善  
悪成つて後美少年の所為とて其  
くふ書は貧福因果の道理を  
えて悦ぶをわの怨むむく涙を  
催すまは快然なる栄光を視せむ  
ひの艶谷美麗の婦人をいづく且  
娘に且貞ふりて春情の動する  
おき場まは止然して看官行と改  
むるの段も備り誠に古今の奇談也

外題鑑



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

大内 十杉傳 為永春水著

初集 五卷

二集 同

三集 同

四集 同

五集 同

第六集

上帙 四卷  
下帙 四卷

あまの防州山口の大守大内家の家系と六太は且大杉と代せざる徳行より杉といふ字と辰号する名氏の勇士十人方にお身して文に富あり武に長ずるの勇いさあむの剛勇わさの柳の葉と射貫神の前の妙手わさの天女地利不達一亦ハ未然の吉吉と察する易術の神古十勇者得る才覚多くささ十人に従ふ俠気の勇士十人がこより起つて授十人終小周防大内家の招不應じ

志をてて河運立身するの美談あり日ひて第五編より八作者前々の鹿漏小恥く丹誠の著作製本ゆゑの精正なる佳紙上摺の新取なり

双玉傳

全十五冊

宮田南北著  
歌川國直画

国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

尼子 七國士傳 初集五冊  
為永春水作  
松亭金水作

同 第二編 全五冊

雲州富田の城主天子氏の由来を始  
と、尼子一政の縁故を發端と  
す。細川政元の僱臣に於て諸侯の  
會盟にもあつた九年の命を依り  
るに、術にありて牛の字を号とし  
る勇士集會と義文を補作し  
中國に威を震ひ四海に名を奉る  
の美談に、つぎ出板近江守弟  
五編全部二十五卷を満尾次

南総里見八犬傳 初輯 五卷

曲亭馬琴編次  
柳川重信画圖

そのもと、安房上総の國主と申えり  
里見氏の清和源氏の嫡流八幡太  
郎義家朝臣の十一世里見治部少  
輔李基の嫡男義実とて安房の國  
主の元祖とまはる。此書のはじめ、室町  
將軍義教公と鎌倉の持氏朝臣と  
確執をいひ、後花園天皇の永享十  
一年二月十日持氏父子がはらへる報  
國寺に切腹せらる。後持氏の二男三  
男春王安美の公達と結城の氏朝  
すゝひまらして義勇の人々をかざり  
勲めり。里見小栗の豪傑とてその不  
結城の城とちかかると、永享十一  
年の春より嘉吉元年四月まで籠  
城三年に及び糧も矢種もあつた  
あり。城兵つぎつぎと打死はしまり  
孫の義に義興の後城を落す人

卜頭盤



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用



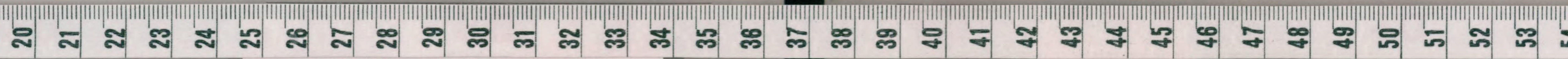
里見八犬傳

二輯 五卷

曲亭主人著  
柳川重信画

この編の巻の義実朝臣の夫人平  
子伏姫の所身の上と安楽に病に伏あ  
り義実夢中に役の行者の告と  
かぶちり亦其臣堀内藏人自行も異  
人の告にうそ東條と名出龍田へ来  
りて主従奇異の思ひとほひそりふ  
富山のりる婚じさ伏姫山中にお  
りて法花経と日ぶとふさく(巻)  
犬の為小身といひて三年の春秋  
と過し或日神童にわひて因果の  
道理と感得ありて隆陽の野為ま  
去とていふも法花経の功德を玉持  
の怨念善果とあり里見の家と  
さかんるじむ八犬士がまのちむら  
とていふまの一段がて金板大  
捕がうつ鳥銃と八房の大命に  
落伏姫の病とては倒すう八犬

捕後悔して自害ふをふさる  
捕矢とていしてそのまをめ義実  
主従とふいして姫君の自殺もふ  
前後の條下のいふと古今にまた  
ゆもるま因果因果の道理高  
僧智識も不及明辨解説何ふ  
とていふまの親の秋情を  
やうふ亦賢將と才女の覚悟とを  
あてて聖もよづる應答志操水  
晶の珠数八ツの玉八方にちりて八犬  
士と後の世に現を唯の最期且五十  
子の方の病死大捕發心して、本坊  
とあつてハッの玉のゆゑとていふ  
て旅路へあつていふと第二の巻に  
いふていふまの初編の一の巻に  
結城合戦のりふかちりて里見と  
同く龍城へる鎌倉の忠臣  
大塚匠作その子番作が結城と  
落ちていふ君とまへんとせうとていふ  
は美濃の國樽井の宿めてすむに



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用



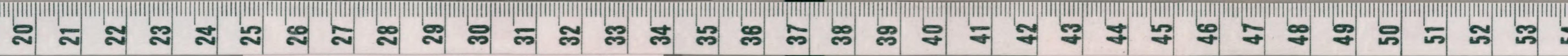
上三の村長をば家言て安永に  
 へ番作はまじく其日過を此ホの  
 子に為に遠く思ひて忠臣孝  
 且栄枯盛衰のあり入るひが武  
 藏の国の名家豊島左門の一族練馬  
 平三郎の家臣の娘由緒正なる不幸  
 にして豊島六の養子とて濱路とて  
 の美番赤七貞実なる養父母あり  
 少しも似ざらぬ能はる知自志思の  
 のめて甥の信乃と濱路の百子と  
 て村酒丸の刀とてを以て鎌倉殿へあら  
 せとするのたゞ其か種々の物あり  
 畧もてもまじく番作自害して死  
 信乃の伯母の好むに中なる此は豊島  
 の家に額藏といふ小者あり此人は  
 伊豆の国北条の莊官犬川衛士則任  
 との小者の一子乳名莊之助といひて  
 長禄三年土月朔日に生れりこと  
 二編の五の巻にて終る

里見八犬傳

第三輯

柳亭馬琴編次 柳川重信画圖

此の巻のはじめは信乃十二才にて  
 父に死れり伯母にやゝなる  
 物とて額藏心とて信乃の爲  
 の豊島養六が奸を告ぐとて番  
 作の二十五月の法事の後信乃を豊  
 島の父引取り濱路とていふやゝ  
 の一段且信乃の母手束う拾ひて  
 とて豊島大の死骸を根に埋め公房  
 の梅の実に仁義礼智忠信孝悌の  
 文字ありて奇説をこれより年五  
 て文明九年信乃十八才濱路は十六才  
 とて豊島氏とて管領家の合戦  
 わりて文明九年四月十三日臣用直  
 葉の人々豊島煉馬の由斬りてかひ  
 江古田池袋のらちとて濱路は  
 厚く実の親兄弟の練馬にありて  
 愁ひ歎く心より信乃をよめる心と



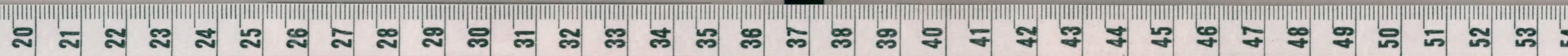
国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用



告んとする情合あつて同村ある  
 棟助といふ百姓かして信乃とまらり  
 厚く其の死にのぞきて病ひの苦  
 痛と堪へざる身の素生ながら入の  
 実子喜吉といふの成成氏の妻夜  
 と勤むる人小とけしゆで物なるこの女  
 吉といふ小兎の長祿三年十月皆安房  
 の國洲崎に出生せり実の父も養親  
 中さして長をといふ名の氏も系圖も立  
 派なるねが伏惟神天の感導ありて  
 後に犬飼見八と名号八大夫の一豪  
 傑ありて濱路と妻にせんとし種代  
 簀上宮はがよりまた左衛次郎と  
 りよの尊六かゝりて謀事せり  
 神宮川に信乃が秘藏す村雨丸の  
 刀まかりて悪事信乃いれどか  
 きて村雨と成氏とたてまつりて吉我  
 ちのむ其跡也簀上宮は濱路と  
 儀とせんとす夜左衛次郎は無味濱路  
 とをいひて立返せり本郷岡塚山にて

左衛次郎が村雨の太刀を盗りて代せりと  
 圓珠に無法ある口を腹立せり  
 濱路が一念左衛次郎を打てて却り  
 これ為小殺せん守りその食も口  
 かし風情者官奉と握り秘藏場初  
 編より九編の作者の大功の巻  
 みのりく衆人衆を寄せし成小濱路は  
 信乃とまらり苦痛にあらざり毎次郎は  
 あり殺すあんとす其野小寂莫道  
 人といふの少定の穴よりわらへて出左衛二  
 郎といふ濱路と只嫁のあつて成  
 村雨の太刀を盗りて是も濱路が腹が  
 くの口大山道即忠手と練馬の精養軒  
 天下の豪傑八大夫一人の妻喜吉は始  
 其名は喜吉の山とて鎮藏の莊助道師  
 と戦ひの日はまこと奇遇又顔藏  
 幕六の方止かひ村雨上宮は喜吉  
 六喜吉小とわらひまの仇を即討つてひ  
 かくて幾人をも無実の罪かゝり  
 といふ牢屋にこもりて悲情を夫塚



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
 タイトル『外題鑑』

ガラス使用

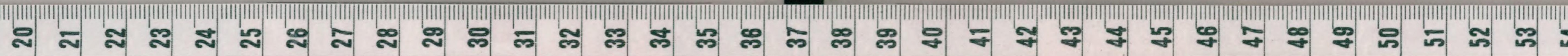
信村雨の太刀さし如くはなる  
心づつぞ直我の御所ぬきむ成氏  
公をさすりて死その太刀の徳のあるふ  
よめて疑ひをわたり敵國のまへに者  
あえんと既ぬ命ぬも及むとす難  
儀とありやさきも届けられぬ  
犬死をまぬおちゆく多くの捕手と  
切あはし方へ追散す一官掌の力量  
早業実ぬぬ教人番作が苦君とぞ  
父とを揮井の金蓮寺に勇とある  
その徳とあわたり其姿を育し信  
乃の柔和とこれより事か矢士中の  
初筆にあらぬ程のわねは  
まると曲亭翁の自然の妙作後者  
官の眼にさまり錦繪お摺り  
祭礼の行燈額面にまで画し  
古我の御所の芳流閣といはせは信乃  
が血戦をさびり稼助の妻子大見  
八信道と信乃の捕手お上へ登りて  
西側の組打が第三編の大詰あり

里見八犬傳

第四編 全五卷

曲亭主人編次 柳川重信画圖

詩我の城中芳流閣の屋上ゆく彼  
犬塚信乃は多くの組子と打破り  
憤然とるその所(犬飼見八)登り  
来りて互に武勇とあるひてより組  
方より坂東河の岸に  
舟の中へ兩個の組方供小舟に  
小舟を流し流し方とある  
成氏公の下知より新織帆木末といふ  
あはれ遣手の後とせらるる下繪馬  
飾郡行徳小古郡屋文五兵衛と  
いふの釣みして小舟の流し来り  
見入るとある人と兩個とも絶  
あはれ家抱は見えいふ養生  
甚だ信乃のさきもあはれなりと  
文吾兵衛の素生なるの里見八  
よりの今も死をさし敵とる



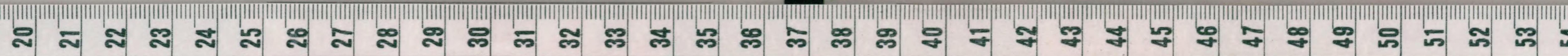
国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

両王の義を結ば伏魔神  
 其の王の奇瑞古名屋文五兵衛の安房  
 の神餘の忠臣一那古七郎の弟多りと  
 りの因縁其子小文吾の長祿三年土  
 月の美れぬれも以前小見八郎弟  
 の区に結ばりて大塚の権助が見八  
 のまゝに吉吉とよひ節捨ゆるまんと  
 せりもろく足控見兵衛の貴いて文五兵衛  
 が方にあひしりひり比より縁をま  
 得ず初編二編三編の因縁別貫に  
 なるていそくおと因にそを讀ま  
 小文吾談連綿なる教やくむとすこ  
 世論の小文吾の姉聲房八のいのめ  
 反間の苦身義にあらく信方の身代  
 とする奇妙の作意の同め金太夫  
 浦、大坊が念平の修験とより聲時  
 十郎が子十郎とら者親得と号と  
 実々大士とらる内意を置家より  
 兼て行徳の相模と佳き一回房八の  
 簡めて小文吾の妹の女を産む小見後

小犬江親兵衛とある發りまゝに  
 伏魔の神大八を志くむ  
 一條まてまの五巻の文明十年正月  
 二十日より説く一と四冊の中一回二十  
 二日の夜すまをいその時刻の二十百  
 父方より二十百の夜あひすて一日二  
 夜の物語りあらも同下所とて  
 多るく述つぐまふ者官道屈  
 はむごとの五冊もと神祕教教恋  
 無常のまらもなるとて誠み古  
 今の美談くらゑ

里見八犬傳 第五編  
 全五巻  
 曲亭主人編次  
 柳川重信画  
 漢齋英泉画  
 大塚信乃古郷近くいで額藏  
 の無失かきさるをせめて小文吾八  
 とよめ法場にあつて社助の救ふ  
 勇烈な軍を切りし吳士とれより  
 戸田川小おと馬度の危難は即亦

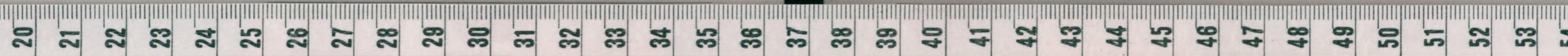


国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
 タイトル『外題鑑』

ガラス使用

カニ尺八の二丈の仕士大石が陣番  
 の共木を折き大士をすくひ退る  
 するの快きも六妙義山中の遠目  
 鏡を以て 莊助犬山道節の姿  
 視る多奇遇の糸口説くけを  
 より道節の村雨の太刀を賣し傷  
 して定正を知らぬ復仇の強き巨  
 田助友の遠謀により道節大軍  
 小舟を巻きて七小舟を折り四犬士  
 の行合により犬山の里四犬士  
 が合して大々たるの大戦犬士相合  
 く相見し由文の地藏堂小道節莊  
 助首級をわらふ暗試合上野の国  
 甘樂郡荒茅山の麓村小住音音  
 とりの老女が犬山道節に目録わ  
 のののより其新婦曳き軍節の  
 元が貞孝こころん力二尺八の妻を  
 れりすく讀入る毎に因縁の浅  
 くさる奇談古今の小説不測し  
 めはほり勇戦より秋の戦の場ふ

をわらぬ趣向莊助道節二度の出  
 會死する者を陽人に現在の秘死  
 判りしるまの奇妙さ小舟を折る  
 わらぬすく犬山道節が火道の林をま  
 走る恥る業ありとを其秘書地  
 地ふくく焼するいさな勇力方  
 所為合圖をねど地炕の火炎燄々  
 て巻く煙さのふりくく八分より  
 打捕り犬山道節大介莊助大朝見八  
 天甲文書大塚信房の美夫奇手と  
 一刀ふくくしする勇猛いすまげ  
 ありしるまの趣向陣法大敵再人奇  
 する自身の大軍麓村と押来る大朝  
 見八か松のまきと好登つその見を  
 色むくく色く敵の兵を打やむん  
 とするの勇威老女音音その白夫猪  
 平前名姓世田節の二丈大胆勇  
 氣たむく其力二尺八の像具の身  
 甲あひはり陣鏡小鉢巻むくく



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
 タイトル 『外題鑑』

ガラス使用

音音の長刀をさしつゝ五太吉謙や  
荒芽山を落さんとす忠烈者共  
五人の勇士あつたふひむかば東寺  
軍師の美言をたまふ小豊嶋家  
の臣下ありけり武家くさむらも  
ら甘きと六男二回小死さむら  
村尾村多小汗あがる一大事この五の  
巻をくさふらふか次編の多元  
ふあふらふらつ程る見物も  
あふらふらつ初編よりこふ至く  
巻毎佳境多しとむらもひつて此  
五編の作者の為小苦の境多し  
三太法場をわらわく七額蔵を  
救ひすこ右田川の冬難道前が砥  
沢山小定正を討つらつ時の戦  
ひそのゆふよりく四太吉不慮の  
難戦を五の巻の麓村まで巻中  
軍談のどき場のもる筆力の妙  
ふるむ世話人情を尽さるる実  
曲亭自然の秀作といふべきものぞ

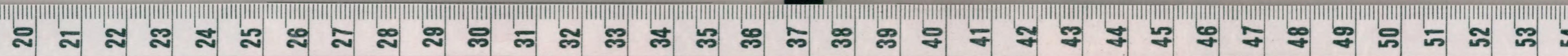
里見八犬傳

第六輯  
全六冊

曲亭主人編次  
柳川重信画  
漢齋英泉画

上野の国甘楽郡荒芽山の麓を  
五太吉自井の城兵と再度合戦より  
世田郎音音が必死の働き家火を  
くつて山林草野を焼拂ひ烟あふ  
紛まゝく大士乱軍に身をかき  
曳子軍節が行方を追ひて小文吾  
途中小野猪をもち殺すの強勇  
他を助け宿願成すめ却て其首を  
わらうくは船虫との毒婦のため  
小次火ひせられをまじり石濱の城中に  
奸臣馬加大記らふの小憎をうけ  
押入とる月旦是過すと亦その  
大記が悪計を冥王の奇持にうて  
まらうく舞子の為小次火ひせられ  
難をすくはる奇談舞子の乙女あ  
らうの美八犬坂毛野胤智とく

外題鑑  
四十二



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

智勇兼備の美事幸多入敷の大敵を  
打取の美談小吉毛野のあつて  
千葉の城を退れ大河の甲冑を  
大行方とて大飼見都の伎住  
險路を教其後ましく異とて  
旅路のさすく下野の国真壁郡細宇  
との所て庚申山の怪談を  
む一犬に九廿怪物の矢を射し  
且中野大村大角の父一角の者  
の亡冥小逢奇怪の事赤岩齋  
山の談古今にめづりきり  
殊に今も現前なる仙境の勝地あり  
かてかの山の変化神通をのりて一角  
を殺し怪物一角に化して孝子(喜)  
す名ひる残毒まじ角太郎の事難衣  
少貞郎大飼見一角の頼をうけ  
角太郎とて大村大角の由來とて大村  
由まの犬士の一人あることを發明する  
の二條大村の玉持区奇談此巻の  
殊き小吉新対面の多かり

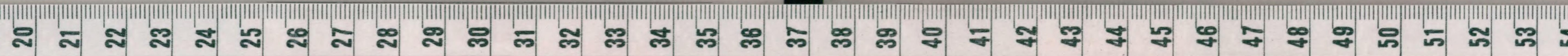
里見犬傳

第七輯 全七卷

曲亭主人編次 柳川重信画

この巻の犬飼現八が下野国安換  
郡返壁の白屋ゆく大村角太郎  
礼度と文武の道と論ト居ふ  
まじりて継母船虫とて女角太郎  
の離別せし妻難衣といふの事  
つとまりて角太郎の利害を解て  
宅小吉の奸計とてあつて  
現八の事とて船虫とてあつて  
思ひ角太郎の事とてあつて  
さぐると一角の方へり多く  
の事とてあつて  
打倒して勇威とあつて其夜に  
入るまじりて多し人の苦害と  
あつてとてあつて  
とてあつて  
て角太郎の家にあつて

下野鑑



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

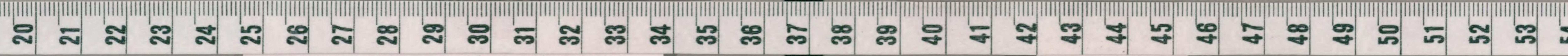
ガラス使用

一角船虫ハ角太郎の方なりて  
 親の威光を以てあつてはるも  
 離衣ハ自殺を胎内の赤子と  
 して謀りて非道の  
 王の飛出て一角をもちて終つ二  
 犬士偽一角の猫を連治する奇談  
 毒婦船虫が菴山の逸東太と  
 りの者とてス目と退きざるの嬌  
 言も大飼現ハ信勇まをいさ  
 今の傳記あつてなりは美談  
 多し第一の巻より第二の巻より  
 甲州大塚信乃が諸国をめぐりて  
 甲州巨摩郡富野穴山といふ所  
 鉄炮のわら災より武田の家臣  
 泡雪奈四郎といふのを打ま  
 武勇といふは同国棟石の村長木  
 工作といふの来り奈四郎と信乃  
 とあつてあつて信乃と伴

その家になつてそむく此木工作の  
 家の信乃のゆるとあつてはるも  
 木工作の中より娘濱路といふ  
 里見家の息女五の君といふ  
 りしくをさるる在せりと死に驚  
 の為になつて此国の山中に  
 むとてそれよりオ工作ふや  
 れるふふの因縁ま信乃が  
 りひまづけの亡妻濱路の冥あ  
 まで信乃の恋情と告んと五の君  
 の濱路の身をかりの奇談ま  
 木工作の妻ま引といふ婦人奈四  
 郎と密通してあつて信乃と濱  
 路とをいふとす思てより  
 木工作をころし信乃を罪に  
 とりて信乃のすむ無失の罪  
 て武田家へつれえられける所  
 其利兵衛亮元といふ眼代役  
 山道郎といふて信乃を庫の内  
 よりか濱路を連れ退くは後

外題鑑

五十一



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
 タイトル 『外題鑑』

ガラス使用

誠の亮元来りて家内見分の一條  
 まて武田信昌の明君なる史小同國  
 石和指月院とてつね、大和尚信房  
 道節の對面して仁徳をく善  
 惡の政事あるうあつめりて  
 いりててあつて此段の第四  
 のまはより第七の巻の八丁目  
 説終ふころ犬田小文吾の伊豆の船  
 路小難風ありて鳴々に年とあつて  
 かちやく浪花ふりて北陸道に  
 くらり越後の州北羽郡小千谷の  
 里に旅寮して同國古志郡二十村の  
 鬮牛の神事と見物まことの鬮牛越  
 後の國ゆて実に名高き一奇事  
 かりさるべ和漢の古事をひれ  
 角觥の古実ふりてまてくはしく  
 ありていごさきたれば例の法り  
 りのさるて同くも音官の為  
 由も益多くよむ小随ひて佳境ま  
 ちくかどてか

里見八犬傳 第八輯 全十卷

曲亭主人編次  
 柳川、里信画

犬田小文吾が裁路と牛合の場小  
 太刀頭いなり彼毒婦船中の賊  
 所業とて猶偽誓とありて小  
 文吾をて殺さんとあて捕られ地  
 定めりて古き夷申堂のうめ  
 かと大川莊助たをてこれ殺  
 ひ賊の隠し家に入りて船中  
 文吾を頭酒題とてこの小  
 文吾を逗留する石馬屋次園太夜  
 打ますの悪行かひて文吾莊助の  
 皆殺しふされ亦大田大川の一事り  
 領主にいさめく毒婦人の為み死を  
 たまひり老臣の内計はるく命を  
 するが東使二天士の偽首とありて  
 旅中大坂毛野のうれ小文吾大川  
 小毛野と合せのめり大坂軍  
 勇小毛野と合せのめり大坂軍

国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
 タイトル『外題鑑』

ガラス使用



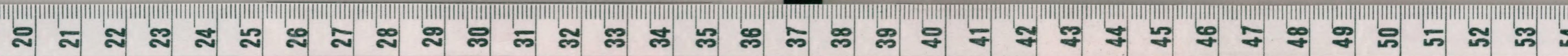
川千住河原小賊ありとうふふと  
 命命あまの多大変速然ひまを  
 無失の難賢女のなりの場の場を  
 のれ住河原六山犬塚あまひ  
 盗賊の本人を捕へ無失の罪の證を  
 せんとして徳北の郷士水垣親子と  
 戦ひてめめ賢士のかもれを  
 知るまゝあまの幸ひの氷  
 垣親子大士の味方とるの美談  
 大法師林布のまををえんひ  
 浄め一郷の害を除く奇事湯  
 島の社頭小才子遊戯うま  
 五十字城の浅密をけ仇を打ん  
 する大義すくゝる春犬坂毛野か  
 りあつて美談多く亦その際に  
 いづく飛虫 司馬浦小刑せらる  
 忠義毛野と 一づつ大士司馬  
 清めつるいづれをらして密に毛野と  
 まんじと平手方の城をせんするの  
 りり毛野代村の場を巻はる

里見八犬傳

第九輯 上巻 六卷

曲亭主人編次 二世柳川重信画

この巻、文明十五年卯正月其見の明か  
 小犬坂毛野宿賀の仇籠山逸東太  
 縁連を打ぎんて武藏の国屋川る  
 鈴が森小戦を初うて五十字の城兵  
 ちる小田原の使られ、嚴重の備え  
 ちるを恐るまご只一人教人を切破  
 つく終ふ本意谷達まるとの血戦  
 りよもあまの危き同情眼前み  
 見えか如く殊小犬坂口一人を東西よ  
 りま交合母と打ぎるべき敵の手配り既  
 ちかかり難戦のまり小毛野を仇の  
 猶もいせむける二の野太刀西の  
 多の犬田の支吾東の路より犬川莊助  
 名のやまひく打て出づるまも目  
 半の敵に文法筆力自然十方  
 小散當て段々きり中のみ文  
 墨に利敏の徳あること亦

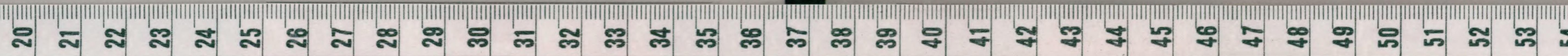


国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

谷山の伏勢仁田山晋吉を打ちつる  
 馬をうたへるの働らき敗軍の注進を  
 して角合定正五十子の城より加勢  
 不出馬を忠臣河鯉守之を諫て  
 後小目言以定正諫をききて三百  
 余金を品川小操の犬飼見八天村大  
 角太山道節の三天を穂北の兵無  
 小伏勢と多のころふ切らして刺さ  
 天小塊を射をききとて敗軍  
 多可鯉孝嗣あすいまできり死  
 して天塚信方の千余人の小勢交  
 して五十子の城を焼打を来取倉庫  
 をひきき金銀米粟をききとて城  
 下の村民を死し徳をあらと再度  
 五十子を立去の信義多と古今に  
 されたる美談を多く多し且河  
 鯉孝嗣大と古戦して威威落  
 してさすをたの天吉品川をいむと舟  
 路の退口下一信の道とる多  
 古より軍記の文段たまやる多

多た不似しほどもの兵八天博の  
 ごとく至てはせし修羅場のおもた  
 絶とる一湖上の軍談師は是非も  
 よとて古耕の助とあすべと定正  
 が思ふと忠臣を疑ひ国家を保つ  
 ざる段をい更に実録のきりあるん  
 犬士穂北の郷士の家故りれて結核た  
 旅ごち安房の義美隠居せられて  
 義成里見の二代とわがらむその  
 假ゆへ過りゆがもくはくはとて  
 省官のあふ益多く長編ゆいて  
 よとわらむらむえらひのわらす  
 をも解してのせり事する多或の  
 上総の国夷藩郡館山の城主とれ  
 葛田推頭系藤との小者の素生  
 するこの者のいづれ鬼語をきき  
 一城の主とあり奇談といふ百十五  
 尾との小あやみ尾の出来を素藤  
 の西城たまけ里見家の姫君妻  
 みるさえといふ一條よりをかりて伝



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
 タイトル 『外題鑑』

ガラス使用

りて里見の若君をうをへりて  
を人質とて非道の合戦を  
里見義成ををつつたのま  
の神天神通をわつて遠く義成を  
ささるる奇事あり小義実伏  
姫の目を見つゝとてか姫君の  
終長祿元年より二十有余年の後  
をよめ富山よりこの頃安房上  
総の二州あはくくはつて  
領分より伏姫神皇の在り富  
山より油断せしむる小主代  
三人山深く入るるを麻呂女  
西の残黨よりあはれ起りて  
既に義實朝臣あはれりて  
所へ是りの少平大江新平とて  
人あはれりて西漢とをわりて  
あはれ突立わりて憤然とて  
りてはるる重なるのきり画  
ありてこの六冊のむすびと

里見八犬傳

第九輯  
中帙七卷

曲亭翁編次  
柳川重信画

この巻の上帙のなかに富山の  
大江親兵衛が伏姫の神皇加護の依  
てりて九才の童子とてその才  
力稀代の傑きとて敵も忽ち感  
伏して里見八犬を以て雪寺即  
ちの事音音その嫁衆の軍節も  
あはれ富山神皇の真跡ありて同  
居る珠心力二天八の層を二と  
小生せし奇談をこり大江が  
ふとめ義実の免れし館山  
小使者をばつて義実明を以て  
城兵ををたせしめ義成の城を  
を生捕館山を平定し義成仁心  
て逆賊を絶し義成追放せしむ  
て山谷の女僧妙積の再會し  
その巻の住文僧とてこの以前  
ハ次第にりて美しき色香の愛



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

て情を通し淫樂をほその後妙  
椿の奇術濱路姫をゆやほ義興  
を迷がへ大江を遠くまを義興を  
夜打と里見勢を追出し一人は主  
とす妙椿ののり果を極め里見  
勢こそを責て敗軍なりその中  
妙椿のさるくの所を流し濱路  
を盗む途申て伏陣の神主は  
子のかれ且脚を踏とてう那  
かとう義成後無く大江を  
かえりし一條相兵衛の武藏の目  
ふりり上野の原の茶店にて河  
生太郎の妻ののり大坂毛野が  
ののり河原の茶店の暗を  
ののり河原の茶店の暗を  
ののり河原の茶店の暗を  
ののり河原の茶店の暗を  
ののり河原の茶店の暗を  
ののり河原の茶店の暗を  
ののり河原の茶店の暗を  
ののり河原の茶店の暗を  
ののり河原の茶店の暗を  
ののり河原の茶店の暗を

里見八犬傳

第九輯 下映上五冊

柳亭主人編次 柳川重信画

犬江親兵衛河鯉佐太郎戦を止めて  
二人の名号合再度茶店おひりり  
あや互に身の上をかるこふ茶店の  
婿が面影竹腹の刀自の良に似たり  
お婿の河鯉氏の母に命を救れ  
るお婿とその後乳母と化して佐  
太郎を中身入し奇談政本菰といふ  
名より神通力を安房のことごと  
く大江おをめつめがう頼政  
木の老松いふ心の池お入龍と化し  
昇天するの神高国河原に大江河  
鯉賣茶を視て大士に因みあつた  
團太ふ名号あ奇遇里人の舌妨  
をうちこぼして味方をゆるのようあ  
は河鯉氏名を改めて政本大全と  
るの後幸里見家の名臣といふ  
る後功をうび養崎土庫に會て

外題鑑

五十六



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

上総小渡海一再度館山の城を  
勇に打ち取り素藤を生  
捕て妙椿裡を亡びしを  
この妙椿より妖女僧の  
房の犬小を育う裡の  
を古し裡ハ王梓の餘怨  
里見の崇一因果初編の  
小過一より一白き  
さぞ誠にあまの地作ら  
さく義成の仁政館山の  
素藤を誅して功臣を  
江の大功を他人ふつて  
おむくかの地に  
七武士との里見李基の  
を下の古戦忠の天を  
その法場小火火の一大  
来い七武士の危難に  
吉のむらと思ひ出せ  
さく修羅の備えが巻尾

里見八犬傳

第九册 下快中五册

曲亭主人編 柳川重信画

此巻の義烈院殿里見李基の追善  
結城の古戦場、大庵の法事と後  
つて逸匹寺の住持徳用といふ悪僧  
同気相りある結城の家臣長城  
枕之助、惲利堅名、泉司、経枝、根生  
野飛雁、太素、頼るといふ者がかこ  
らひまゝ徳用の弟子ある堅削るべ  
九て三百五十四人三子ふとつて法  
場とせんとこのまゝ七犬士の敵  
とてくつて二ヶ所小は道節大用  
毛野ハ大庵小残り、莊助、小文、吾  
現ハ八の林の中に伏し信乃ハ蜚崎氏  
と、大法師と守護して立退六犬士の  
敵を生捕て退口よりといふも信乃ハ  
途中ハ大敵といふわハ左右川の辺  
ゆて徳用とたふ最中、大法師と  
蜚崎氏の強勇の惲利が大車に

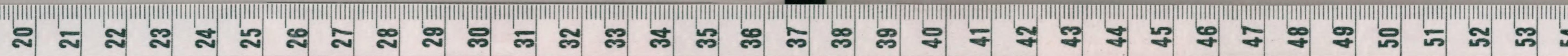


国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

まれば既小老を其の所へ大江親兵衛仁が来りて忽ち大敵をきりやぶるされどもこの時仁が同行しつる政木高綱石龜屋次團太新三の三人と伏勢の鉄炮をけりてこれより八犬士はらふちめて相揃ひ大と雀崎氏とを介抱して六道山能化院教主とまろ所へ城内の使者小山太夫の次郎朝重といふのきこりて諸大士に無礼をいひて無事とせむこふそのむじ嘉吉元年七月六日小地蔵尊を建立して里見季基の菩提吊らひ浄西坊俗性十八といふの忠義孝子宋西法師の孝心ありひの伏姫の天神風を抄りて難とせむを將軍地蔵の冥妙にて大士の難と我度もまじくといふ神通力六道山結城と郎朝光の建せしむるをいふめ其のまじくといふ因縁奇談巻し小るるいづく入組

前後の分鮮実小その場を眼前小着うらぐくいつる尽す例の妙文をいひて長編の奇作を賞いぬ色いさへ犬士はよその情願とんどあつ安房の国へいり稲村滝田両城へまはり里見両君目見と君臣上下数十年の本意をきくゆゑに念念美談多しといふ畧してもいさへはえそれより八犬士の本住と金鞠氏小るるといふ大法師と評議ありてやうやうその名に定められ京都將軍義尚公へ使をまらするの一條との間まは白濱の魚量山延命も小季基の送棺といふ事あり法蓮も小妙直の更季一節が大江親兵衛との再會あり七士も新古のまじり対面もあらうこがきのみ多くありて親兵衛の都のやりの大役といひつひくは黄等照文と船路といふ三の国寺子等といふ凄み風待て



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

海賊の難小のあの大変船商人  
 とりて立たる海軍王修羅五郎といふ  
 海賊の頭と水中の難戦妖雪代  
 四郎の水練のよろこあまのここのつ  
 是照文の陸ふおと海賊の首領  
 今純友查勘太といふめと大戦  
 一既小必死とありしとありし三の  
 のく小奥舟の城主隣尾判官伊  
 近の賊と制衣する軍兵の加勢小  
 よろく功とたてをまじり都への不  
 して魯鎮政元へ流がひ將軍に金  
 銀とたてまつり且金碗姓のこを  
 天子に奏す一首尾よく安房へ  
 吹らんときとさつ小細川政元  
 大工とあはれてここと許さる長  
 在厄豊漢志まな千里独行  
 虚五関といふ句にのりて巻と  
 をむをまじり次編を

よまのり

時代物の部

小野小町一代記 全六冊

安倍輪廻物語 全五冊

大まの安倍仲磨入書への奇談あり

繪本菅原實記 前十一冊 後一冊

繪本玉藻談 全五冊

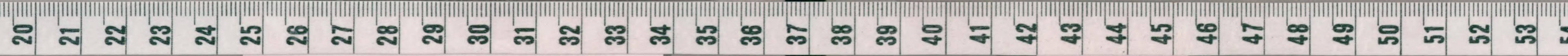
大まの玉山先生の画作り之三国の人物をめぐくその趣を及されり

繪本三國妖婦傳 三編揃十五冊

前書に同かうされども玉藻前をいふてこの物がうたのよま

外題鑑

外題鑑



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
 タイトル 『外題鑑』

ガラス使用

奇談怪談の部

英草紙 全五冊

般系々夜話 全五冊

秀句冊 全五冊

御伽不うた 全十冊

こまの奇談怪だの種本をも  
いふべきのみぐり古今の珍説を  
多くあつめり

遠山奇談 全八冊

小夜わじ 全五冊

奇談怪談の実説を編輯し  
紙あき古今にわたる書といふべし

兔月物語 全五冊

一二草 全五冊

用草紙 全五冊

あの類ひの物があつた数百部あり  
しるすに記さくさうばくごうか  
そのうち佳作を考へて出せり

著作堂一席話 近刻

曲阜馬琴翁七十余歳の長壽  
まで五十年未見聞せし奇談  
珍説を古今未發の高論多  
と致強くあつた唯一席の物語り  
としるすもの面白くこれをいかに  
の草紙ゆめいかに新奇妙談多  
いそぎあつたものあり各あかひる  
著作堂の拍堂あつた一席話  
を待たぬかかん

外題鑑

外題鑑



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用





高僧傳の類

釋尊御一代圖會

北齋老人為一画図

聖徳太子傳圖會六冊

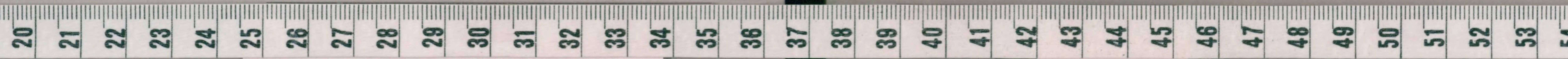
日蓮御一生記圖會 前後十二卷

高祖大上人の御系圖を以て  
御一代の事跡を諸書以りて  
改正し御行状を圖會と爲し  
ていめし御堪難を目前の拜を  
たがひて古圖をうへし丹誠を  
こころまじく宗祖の御傳世に  
とよまひて御傳世に依り  
御宗旨の人々我慢の扁屈を以  
てこころよく信心のまこと以りて拜  
覽わすれりとのあり

喜多川寛雪画圖

外題鑑

外題鑑



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

繪本一休譚 前二卷後

中將姫一代記 全五冊

熊谷蓮生一代記 全七冊

弘法大師御傳記 全五冊

圓光大師御傳記 全六冊

釋迦八相記 全五冊

日蓮上人御傳記 全五冊

親鸞上人繪詞傳 全三冊

西行法師一代記 全六冊

北四輩順拜圖繪 全十冊

諸大人隨筆之部

今昔物語 宇治大納言源隆國郷著

宇治拾遺物語

古今著聞集 全二十卷

集義和書 熊沢イ海著

集義外書 同 著

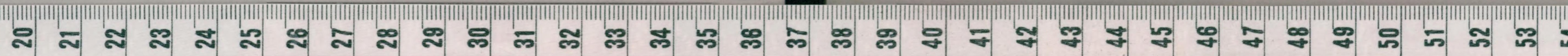
駿臺雜話 鳩巢先生著 全五卷

西行撰集抄 全六卷

閑田耕筆 全五卷

閑田次筆 全五卷

外題鑑



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

開田文章

開田詠草

近世奇人傳

續奇人傳

為人抄

東遊記

西遊記

北窓瑣談

筆花傳

猿著聞集

新著聞集

雲根志

箕笠雨談

近世奇跡考

燕石雜誌

骨董集

芳窓漫録

全五卷

全五卷

全五卷

全五卷

全五冊

前後十卷

前後十卷

前後八冊

全四卷

全四卷

全六卷

三編十五卷

全三卷

全五冊

全六冊

前後六卷

三編五編まで追刻出来

そのく京傳先生六戲作者中興の元祖の一代の著述をわけておぼえて其の中に書いたる年表の隨筆や好京風雅珍奇妙談のりやくの質素その時代を眼前にふかきこ

全三冊



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

思齋漫録

十前後巻

梅園雑話 二合冊

尚古むさみ 全二冊

伊豆日記

七鳴日記

開窓筆記 全二冊

俳家奇人譚 六前後冊

浮花漫録 全

権書漫筆 全四巻  
高田友清著

松の屋大人の随筆ハその風高く  
多俗ハ速き書ぶりされども  
よしくこそよむ付ハまゝ一際  
かりろくハ匠々和学の道ハ  
ゆるの書とりの

棟梁集 同著 全二冊

相馬日記 同著 全四冊

富士根元記 同著 全二冊

萍の何々 全二冊

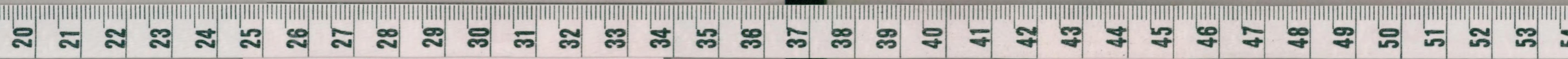
近江より東に旅寐せ博学の  
阿園梨が著一々随筆ゆく  
その文をさすてかのはく系風  
調高きかりの多一随筆の  
るふ一第一

梧窓漫筆 四前後巻

太田錦城先生著

外題鑑

七



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

梧波教諭

前四卷 後

むぎこじ

瀬川如阜作 全二冊

花街漫録

全二冊

雑交記

馬琴著 全二冊

狂歌奇人譚

全六冊

廣益俗説辨

全廿五冊

還魂紙料

全二冊 柳亭種彦著

支同放言

前後六卷 第三編出来

曲亭大人著編

小治政の先生の隨筆

の先哲の解る書籍の注釈など  
丹誠有益のものと多し此書は  
諸君のよく著作堂の号  
とて公刊の特文強記とあるべし

近代世事談 全五冊

誹林沾涼著

去の書、東山殿よりこのころ呉服食  
菜草木器財近代舶来の手替其  
外書画詩哥連俳遊藝雜使ふ  
りては、何れもその初まりし  
とて、いふに、紙を、く、奉、り、て、其、れ、を、  
を、て、殊、更、に、珍、重、の、書、を、な、す、

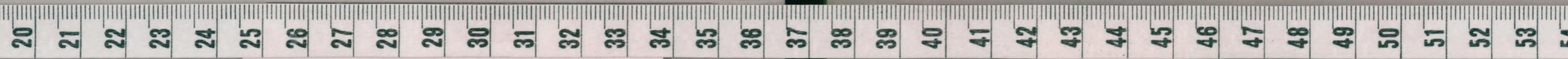
同二編 三編 各五冊、近刻

太平樂皇國性質 全二冊

木公亭、金水著

去の書、儒者と佛者の説の異なる  
を、と、を、説、せ、り、と、て、古、今、風、俗、の  
変化、を、以、て、神、社、不、變、口、を、ひ、ら、

卜原鑑



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

誤らむこといふ説或は山  
 鯨まゝ三味線琴の流豪富  
 貧士を侮る宛夫婦喧嘩や田  
 女あつひの刺墨江戸の方言を  
 外拳でぞぞかへ何とぞと  
 雅俗のつれ説とつげらるる珍書之  
 をそましくし書を用ひて教訓と  
 あつても多うも多うも多うも  
 視るべき

唐軍並諸記録

周武王軍談

全五卷

縮文畧解画鈔

殷の紂王位にのちてより悪行  
 をなす姫小みみ酒不飲れ姫  
 との美入と黄愛しく忠臣を殺  
 聖人となるやまてこふいと武王太  
 公望とよみ小謀つて天下のちみ小紂  
 王と征し終小殷の天子共八代はより  
 年と死六百早余年に亡び武王國を  
 ちこり周の代となるの百年の基を  
 印しくそれより北五代め周の景王  
 までのことあらん

漢楚軍談

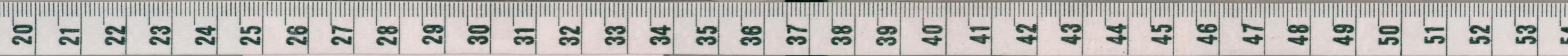
全十卷

曲亭馬琴略文

周の代にびて秦の始皇即位の後阿  
 房宮といふ廣大の玉殿を建三年

外題鑑

十一



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
 タイトル 『外題鑑』

ガラス使用

人の美女と日夜嬉酒小みぎて悪  
人趙高と愛しかきかきめめ依  
儒者で穴ならはれり書物と焼す  
その外種々の悪行法のり沙丘と云  
と云ふ小崩せ二世皇帝位に即て  
天下大に死せ六国の子孫おしく小  
旗をあげ国を起さんとて中も劉  
邦といふ人芒碭山の白蛇と切る象  
人と従之張良といふ軍法の奇師  
と味方とせしより項羽と天下を争  
そひ終小項羽と亡して漢家四百  
余年の基をせりりこまを高祖皇  
帝といふ漢楚二十余年の乃の争  
戦わていこまをくまこまを馬  
子の筆意を略するがうことく  
くその本傳どうしつひさる古今  
奇代の餘人の小傳袋入を價  
も少く諸国の人々家ごと小  
まごふよあり

繪 通俗三國志 一冊 編

葛飾戴斗画 次編進々出来

漢の高祖より二百年にて王莽と  
いふ者国家を奪ひ一旦漢の世は  
失ふことすすて西漢といふその比  
劉秀といふ人出て漢の世を再興す  
て光武皇帝と稱し二百年の基  
行を起しとて東漢と云ひく此  
後漢の十二代靈帝のとき小室つら  
政事乱れと黄巾の賊おこりて都を  
責んとてその頃都を董卓と  
いふ者天子の内官十常侍の悪人  
と殺して天下の権威を奪りて天  
子おのりて大臣王允これ  
をのりて貂蟬といふ美人をのりて  
董卓を亡し世を治りんとす小  
其殘黨李儼郭汜再び王允を  
打て長安を乱しとて死曹操い  
と云ふも大軍をたてて長安を攻め

外題鑑 一冊



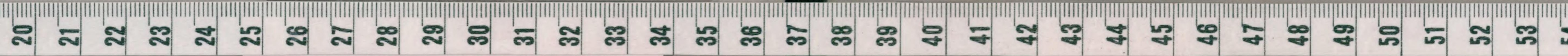
国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用



献帝を守護するを以て恣に  
権をふるふを孫策といふ人周  
瑜曾蕭蕭を以て名臣とせり  
こゝに於て江南の地をひき  
まて劉備玄德といふ人其牙の  
て貧しかりしが関羽張飛といふ豪  
傑と桃園を義をむすび歎難辛  
苦して後并刃に死せし物  
ごりその中より英男夫人を  
とらひて五関を以ての威風十里を  
独歩しまを玄德の臥竜孔明を味  
方にするといふと三度草菴といふ所  
雪風の真に成つといふ孔明の居る  
天下の三分を定めてこれあり  
趙雲長坂坡の勇を以て  
幼主をまもるひ張飛が大音曹  
操の百万騎を橋の上より吹散す  
まらぬ孔明呉の国を以て  
大論しはかぬ周瑜と合謀して  
三江は大軍を以ての全を連環のち

了とて曹操の舟を以て  
舟を以てせむる孔明七星壇に  
東南の風を以ての八十三万の魏兵を  
赤壁に焼打し関羽義を以て曹  
操を以て孔明趙雲に錦囊の  
謀を以て呉の国を玄德とす  
ひ周瑜を以て死せしめて四郡を  
玄德を以てより次弟を玄德の勢を  
盛にするて蜀の国を以て位に  
坐し照烈皇帝と称す東漢の  
十四代百九十五年めより曹操の  
子曹否のいふあつてこれより  
呉魏蜀の三国といふことあり  
威を以てを以て止事なり  
玄德の仁政孔明の奇謀千載  
のいひはくことあり天下の  
善悪を以てのいふ頭明なり且この  
神木の前殿のあやまりと平して  
彫刻のいふ念入と画を以て  
うみしと珍重深り



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

繪本西遊記

初編十卷  
二編同  
三編同  
四編同

全本四十卷ありて満尾

意馬心猿のたどるべき  
奇代の妙作三藏法師孫行者の  
神猿とて下の外小八戒沙海の授受  
を伴ふ西天へ経文のありて  
山川の里の堪難辛苦異類異形の  
妖魔を退治し孫行者の神通を  
も及ぶる化物如く三藏法師を  
苦しめる節ありて孫行者の神  
通金斗雲といふ雲のりて東  
海みづうり観世音にむく悪魔  
を退けり難の奇談珍説多く  
幾千里の山海を経て終つて西天に  
りて本意とてざるのありて人  
世一代の用心とをみる

水滸画傳

初編十卷  
二編

曲亭馬琴譯

七もく水滸傳の小説中第一の判  
りたるものをもあつて妙作多  
く名残たる馬琴先生の筆削せられ  
て水滸傳傳注解和歌の中に  
てその画本と第一とをいふ

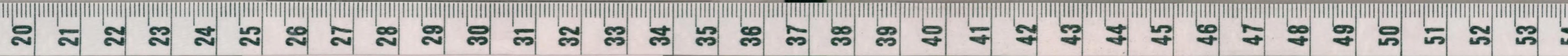
水滸画傳

三編五冊

高井蘭山補  
北齋為一画

四編 五冊  
五編 五冊  
六編 五冊  
七編 五冊

抄のく次刻七百回とあり  
全本とありて六卷官の  
覽ゆりて數元小丹誠の功と述  
せり



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

繪 國性命忠義傳 前後二十三卷

豊臣本阿朝鮮と伝伐をせしむ  
とて大明國より鞏固といふ夷の國と  
戦ひ北の方危く難決るし其  
後和朝の軍兵引むびて三年過か  
大明の亂を萬曆帝酒色不務  
まてて政事どうし多の崇禎帝位と  
て國の亂も安んずるなりとて  
於て本を自成といひ者陝西の北平  
とて河東の地とて亂る殊に  
宋孩子といふ軍士を謀りて  
明軍を打ち破り賊兵をばらばら  
多く飢饉をあらはしと稱し官  
米をば諸國の飢をせしむる人  
威をあらはし大軍をひき都をば  
奪り竟ふ天子を亡しを本自成一  
且關平とて大明といふ國の十七代  
二百八十年中を亡しりあらはる

呉三桂といふ忠臣の大名鞏固の  
軍勢をかりて李闯王の賊兵を  
あり國の仇とひき入る時鞏固の  
大將明國の弊ふ衆とて明の都  
をを公とするをせしり明の子孫  
弘光帝とて鄭芝龍といふ者と  
大將といひ清軍を破るを  
とびくありきとて大明の代絶  
期の定まりありけんとう清軍  
をば明帝始終全しを隆武  
帝位と継ぐといふ四百余州の十  
分を保ちてといふ鄭芝龍の  
子鄭森といふの日本長崎に生  
まるといふといふ鄭芝龍日本國へ  
福がひてかの國へよき清軍とて  
るの大將とてとすといふの女神國  
の血脉とて勇猛武略敵十のの  
やくをえし清の大軍とてありて  
て明の國風元不倫し國を認めんと  
すといふといふの帝といふを

外題鑑



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

史記の再変乱...  
 且どの鄭森ふ国民の父あり...  
 称号を... 国性命...  
 のち永曆帝と... 立... 運...  
 よふ豪傑... 南洋鳴...  
 安海城... 泉...  
 大功... 明国...  
 萬事... 大...  
 意... 病...  
 且どの清軍... 責...  
 う... 国性... 三...  
 和... 義...  
 代... 日本... 国性...  
 和軍... 清兵...  
 余...  
 美談...

琉球軍記 全十卷

清俗奇聞 全六卷

大明国亡びのち當時の清朝の風俗... 書...

唐土名勝圖會 全六卷

漢朝... 披... 地... 眼... 書...

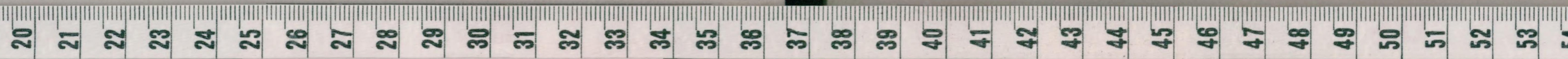
通俗俳聞録 前十二卷

六樹園大入譯  
唐土の公事明断奇談... 書...

Faint handwritten text on the right page, mostly illegible due to fading.

繪入外題鑑 後編 中本の部 一冊  
讀本夕題鑑 中本の部 一冊  
古本の近末 児童幼の愛蔵 中形  
本の外題とてまとめる集めその本の用と  
とわすし記してそのいふもたすし書に  
けりて人情のよきませのいふの便と  
るまを多くわすて色一目を懐くは多し  
正と更いふて變りし亦の書に  
多し本の外題とていふ其まをわす  
求むるの調法のまを以前よりまねる  
むと出入りしは其まの記しとて  
わすしむるも中本に著して著作  
わすむるの種本とて多し亦の前編後編  
拾遺編餘典のむし或冊つき何なる  
のこのいふの幾くもわすしむる  
て本屋へ出た支の部のとてわすし  
遠国他国の中より取えへ用を  
せむるもの見かしはは入のまの  
書の名の著書いふ及ぶ書本  
貸本の中よりわすしむるは懐中の  
本にわすしむるはわすしむる

下題鑑



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

寛政年中より天保のころまで江戸  
戯作者画工の名目その大略とある

作者 山東菴涼傳

式亭三馬

立川馬馬

振鷺亭主人

咸和亭鬼武

十返舎一九

小枝 繁

右の如くく故人とある

作者 曲亭馬琴

烏永春水

松亭金水

墨川亭雪麿

瀧亭鯉丈

花笠文京

文亭綾繼

山東京山

柳亭種彦

右の如くく流傳の先生あり

この外二代目の人々もこの世風の如く  
大人まゝの兄弟の名目の後編外題の  
の末にらりく出づ

浮世画師 歌川豊春

歌川豊國

歌川豊廣

歌川國安

歌川國丸

歌川豊清

柳川重信

右の如くも各人の画先生あり

惜也一故人とある

浮世画師 葛飾為一老人

歌川國貞

蹄齋北馬

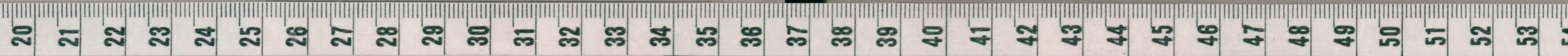
二世 柳川重信

歌川國芳

歌川國道

溪齋英泉

右の如くも當時より流行の画大



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用

あり尤作者とありて画工の多きニ  
 多ありておぼやかりし大給入と云  
 先外との多し人々の多きをせり  
 猶よりくくし者重の名目と云  
 小のこゝに書一奉入也  
 右外記鑑と云く丹城の撰書  
 外記鑑三記のしるしと云く此の  
 外記鑑先の方(口)に書しれり  
 身代

東都撰者

文漢堂

岡田琴秀著述

教訓亭

鷓鴣貞高補正

天保九年戊申仲秋發行

江書

松亭主人金水淨書

全志發行書林

京都

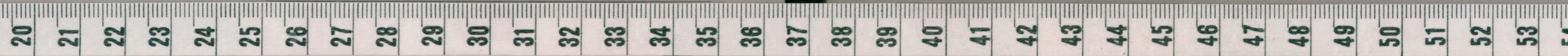
山城屋佐兵衛  
 丸屋善兵衛  
 大文字屋得五郎  
 本屋宗七

大阪

河内屋茂兵衛  
 河内屋長兵衛  
 河内屋太助  
 塩屋宇兵衛  
 伏見屋嘉兵衛  
 秋田屋市五郎  
 河内屋平七

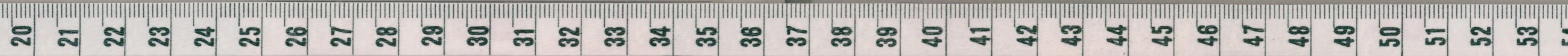
江戸

岡田屋嘉七  
 泉屋市兵衛  
 小林新兵衛  
 丁子屋平兵衛



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
 タイトル『外題鑑』

ガラス使用



国立国会図書館 請求記号 027.7-0441g  
タイトル『外題鑑』

ガラス使用